

## メシア初臨預言の学び 諸書の部

## ダニエル 9:24~27 70 シャブイームの預言(メシア到来の時期に関する預言)

## 1. 預言者ダニエル

- (1) 1章: ダニエルは、ユダ部族の王族。少年のときに捕虜となり、ユダ王国からバビロニア王国の首都バビロンに連行され、王の宮廷で仕えさせられた(バビロン捕囚)
- (2) 2章: ダニエルが仕官した頃に、王が何回も同じ夢をみて、悩む。
  - ① 「バビロンの知者たち」は誰もそれを解き明かすことができず、王は知者たちを処刑することにした。
  - ② このとき、ダニエルが神によって王の夢を解き明かした。
  - ③ そのおかげでバビロンの知者たちは処刑を免れ、ダニエルはバビロンの知者たちを統括する長官となった。
- (3) バビロン捕囚は3回にわたる。ダニエルが捕虜となったのが、第1回捕囚。その後、第2回捕囚では、ユダ王国の王エホヤキンはじめ重臣たちや職人たちが捕虜となった。その中の祭司のひとりが、預言者エゼキエル。
- (4) ユダ王国には、バビロニアの傀儡政権として、ゼデキヤ王が擁立される。ゼデキヤはエホヤキンの子ではなく、おじ。
  - ① ゼデキヤは偽預言者たちに扇動されてバビロニア王に敵対するようになる。
  - ② この方針に反対し、現状を神のさばきとして受け入れ、バビロニアに対して従順に服し、神のあわれみを求めるように説いたのが、預言者エレミヤ。彼は、売国奴の汚名を受け、収監された。
- (5) 第1回捕囚から19年後、バビロニア王によりエルサレム陥落、町も神殿も破壊される。敵対勢力の中心となっていた重臣たちは殺され、ゼデキヤ王はじめ民は捕虜となった(第3回捕囚)。貧しい一部の農民だけが、耕作のために残された。
- (6) 5章: バビロニアは、ダニエルが第1回捕囚で来てから66年後に、隣国メディア・ペルシヤによって倒される。バビロンは王都として存続。
  - ① メディア・ペルシヤの初代の王は、メディア人のダリヨス(5:31、6章)
  - ② 二代目の王は、ペルシヤ人のクロス(10:1)
- (7) ダニエルは、ダリヨス王とクロス王の2代にわたり重用された(6:28、1:21)
- (8) ペルシヤの王クロスの第一年に、エルサレムの再建を命じる勅令(エズラ1:1)
  - ① 帰還民のリーダーは、ゼルバベル(エホヤキン→シュアルティエル→ゼルバベル【エズラ3:2、マタイ1:12】)
  - ② 第二年の第7月にエルサレムに集まり、仮庵の祭を行う(エズラ3:4)
  - ③ 第三年の第2月に神殿の礎を据えて、着工。第1回捕囚から70年。
  - ④ 第三年の第1月24日に、ダニエルは最後の預言を残す(ダニ10~12章)
  - ⑤ ダニエルは帰還することなく、ティグリス川の近辺で死去したものと推定される(ダニ10:4、12:13)。
- (9) ダニエル書の2:4から7:28は、バビロニアの公用語アラム語で書かれた。

2. 「70 シャブイームの預言」がされた時期とその背景（ダニエル 9：1～24a）
- (1) 9：1 ダリヨス王の治世第1年。ダニエルが捕囚になってから66年後。
- (2) 9：2 ダニエルが、文書（複数）によって、捕囚の期間が70年であることを悟る
- ① 預言者エレミヤにあった主のことば＝エレミヤの「70年の預言」
    - エレ 25：10～14
    - エレ 29：10～14
  - ② イザヤの預言によると、「クロス」という名の王が登場し、イスラエルの民にエルサレムの町と神殿の再建を命じ、捕囚から帰還させる（イザヤ 44：28～45：1）
  - ③ モーセ五書や他の預言によると、メシアの王国が到来する条件は、イスラエルの民が民族的な罪を悔い改めて、その罪を告白することである。
    - レビ 26：40～43
    - 1列 8：46～53
    - エレ 3：12～18
    - ホセア 5：15～6：3
- (3) 9：3～19 ダニエルの祈り
- ① その時点で、第1回捕囚のときから66年
  - ② もし、70年の預言の起算点が、第1回捕囚であれば、あと4年で帰還できる。エルサレム陥落の第3回捕囚であれば、あと23年。
  - ③ ダニエルは、起算点が第1回捕囚であってほしいと願う。→ 「遅らせないでください」（9：19）
  - ④ ダニエルは、帰還とともにメシアの王国が到来すると思っていたので、民族的な罪を悔い改め、その罪を告白する祈りをする。
- (4) 9：20～24a 天使ガブリエルが来て、ダニエルの誤解を正す。
- ① ダニエルが願いの祈りを始めたとき、一つのみことばが発せられ、天使はそれをダニエルに伝えに来た。
  - ② 「あなたの民とあなたの聖なる都」については、「70週」が定められている。
  - ③ 「週」と訳されているが、ヘブル語の「週」は「シャブオット」、この原語は「シャブイーム」。その意味は、「7つのかたまり」。英語の1ダースが、中身は何であっても12個または12本を意味するのと同じで、1シャブイームは、何かが7つあり、70シャブイームは、それが70倍、すなわち何かが490あるということ。
  - ④ 何が490あるかは、文脈でわかる。ここでは、メシア王国が到来する年数が問題となっているから、中身は「年」である。「7年のかたまり」が70倍、よって490年である。
- (5) 9：24b～27 天使ガブリエルが、70 シャブイームの預言の内容を伝える。

## 3. 70 シャブイームの預言の内容

- (1) メシアの活動計画における4つの区分
  - ① 初臨
  - ② 初臨と再臨との間における間隔の時期
  - ③ 7年間の患難期と再臨
  - ④ メシアの王国
- (2) 帰還して神殿を再建せよとの勅令が出てから、町が再建されるのが7 シャブイーム。さらに62 シャブイーム経過して、メシアの初臨。したがって、勅令から初臨までは、合計69 シャブイーム(483年)
- (3) 70番目の最後のシャブイームに入る前に、間隔の時期が入る。
  - ① 初臨のメシアは、自分の罪ではなく、他の者たちが律法に違反した罪を負って刑死する。
  - ② その後、「やがて来るべき君主」の民が、町と神殿を破壊する。
  - ③ この時代の終わりには、洪水(大規模な軍事行動)が起こり、その終わりまで戦いが続いて、約束の地は荒廃する。
- (4) 70番目のシャブイームは、7年間の患難期である。
  - ① 国際政治の舞台には、「やがて来るべき君主」が登場している。
  - ② 彼は、イスラエルの多くの者(多数派によって樹立されている政権)と「堅い契約(=国家的な条約)」を結ぶ。
  - ③ 半シャブイーム、すなわち3年半経ったときに、彼は条約を破棄して、エルサレムの神殿での祭儀を停止させる。
  - ④ 神殿に「荒らす忌むべき者(もの)」=彼の像を設置する。
  - ⑤ ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。メシアの再臨によって、彼が滅ぼされる。
- (5) 70 シャブイームがすべて満了すると、メシア王国である。70 シャブイームが定められている目的は次の6つである。
  - ① そむきをやめさせる。定冠詞のついた「あの反逆」をやめさせる。
  - ② 罪を終わらせる。「罪」の原語の意味は「的外れ」。日常的ないろいろな罪。
  - ③ 咎を贖う。「咎」は内面的な罪に向かう性質そのもの。
  - ④ 永遠の義をもたらす。「永遠」、ヘブル語の「オラム」には、時間的に無限という意味での永遠という概念なし。「定められた期間が欠けることなく満了する」というニュアンスを含んだ「時代」。よって、直訳すると「義の時代をもたらす」。メシアの王国が到来するという意味。
  - ⑤ 幻と預言とを確証する。幻は口述の預言、預言は書かれた預言。すべての預言は完全に成就して終わらされるということ。
  - ⑥ 至聖所に油をそそぐ。メシア再臨後、メシア王国のエルサレムには新たな神殿が建設される。

## 4. 70 シャブイームの預言の特徴

(1) 預言の内容：メシア計画の4つの区分のすべてを含む

箇所	初臨	間隔の時期	患難期・再臨	王国
24 節			○	○
25 節	○			
26 節 a	○			
26 節 b		○		
27 節			○	

(2) 25 節は、初臨の時期を預言する聖書唯一の箇所

(3) 26 節は、患難期における地上の支配者「やがて来たるべき君主」の出身民族を特定する聖書唯一の箇所

(4) 27 節は、イエスによる終末預言「オリーブ山での説教」で引用された（マタ 24：15）

(5) マタイ 2：1「東方の博士たち」との関係が推定される

- ① 東方の博士たちは、バビロンの知者たちの継承者であったと推定される。「博士たち」のギリシヤ語、マギは、「知者たち」「占星術師たち」の意味。
- ② 彼らは、クロス王の勅令の記録とダニエル書を持っていた。これにより、ユダヤ人の王であるメシアが生まれる時期を知ることができる。
- ③ マタイ 2：2「ユダヤ人の王としてお生まれになった方」「私たちは、その方の星を見たので」 ← バラムの預言（民 24：17）
  - バラムのその後の行動 民 24：25 民 25 章 民 31：8
  - バラムの出身地 民 22：5